

学校読書活動の取組【亀岡市立千代川小学校】

1 実践テーマ

「子どもの読書を推進する活動の実践」

～図書ボランティア、市立図書館・府立図書館などと連携した取組～

2 校区・学校の概要

千代川町は、北・西部山裾、北ノ庄・拝田・湯井の地域に古墳群があり、北ノ庄・千原にかけて広がる水田一帯には奈良時代の丹波国府があったとされ、古代から多くの人々が集まる口丹波の要衝として栄えたところである。



また、本校の校門は、明智光秀が、天正5年（1577年）に建立した亀山城内の御殿門を、明治13年千代川村役場兼村立集成小学校の校門として移築したものである。全長20.92メートル、総檜造りの御門で、瓦の一部を除き、創建当時のままのようである。旧亀山城の数少ない遺構の一つで、市の指定文化財となっている。

昭和46年の所謂「市街化線引き」以降、千代川町も千代川駅を中心に、JR嵯峨野線と国道9号線にそった細長い地域が市街化区域となり、東部に新興住宅地ができあがった。今津・小川・高野林・小林・千原がその地域で、その農地の約3分の2が住宅地に生まれ変わった。千代川町の人口は、令和3年4月1日現在、3,343世帯、7,925人、旧千代川村当時の人口（昭和30年、420世帯、約1,500人）に比べると5倍以上という膨張ぶりである。JR嵯峨野線の複線化に伴い、住宅・高層マンションの建設などの市街化現象は、ますます進行している。

古い歴史と、新しい開発の進む現状の中、本校に通学する児童の多くが、ここ20年ぐらいの間に移転転居された家庭の子どもたちである。

- ・令和3年度在籍児童数：564名 学級数：26学級（支援学級7学級含む）（R3,5月現在）
- ・教育目標：「たくましい体 やさしい心 真剣な学びを育む」
- ・図書館教育目標：児童に可能な限り読書の機会を提供し、よい本にふれさせ、人間関係や社会・自然に対する見方を広め、豊かな心を育てる。

3 実践内容

(1) 子どもの読書活動に関する取組

ア 図書ボランティア「いろはにホイッ！」による活動

- 平成16年度からの活動開始（会員はPTA会員、元PTA会員、地域住民等 約40名）
- 主に週2回の活動（木曜日：朝学習の時間を利用して全クラスでの読み聞かせ、火曜日：低学年を中心とした業間休みの読み聞かせ、児童への本の貸し出し、図書室の環境整備、毎月の壁面装飾、本の修理、ブックカバー付け等）
- 今年はコロナ対策として給食時間中の放送による読み聞かせを実施（毎火・木曜日）
- PTA総会や「親のための応援塾」での読み聞かせを実施し読み聞かせの良さを理解してもらおうと共に、ボランティアを募集



イ 「選書会」の実施

- 「いろはにホイッ!」、地元業者、亀岡市立図書館司書と学校が連携し、選書会を実施することにより、読書への関心・意欲を高める。



(2) 公立図書館の活用

ア 京都府立図書館との連携

- 京都府立図書館「貸出文庫」の常時活用



図書室前のスペースを利用した京都府立図書館貸出文庫コーナー設置



外国語に関する本「世界を知るために」をテーマに図書の紹介



府立図書館より1・2・3年生に一人一冊ずつ寄贈された本のコーナー（貸し出し可）

※児童数に対して図書室が狭いため、図書室前や壁面を活用して図書などの紹介や興味関心がわくような展示を工夫

イ 亀岡市立図書館との連携

- 亀岡市立図書館「学校配本」の活用により各教室へ本の設置
- 「亀岡市立図書館司書派遣事業」を活用しての図書館教育の充実（R3年度、隔週）



各学級に、25冊の常時貸出



司書と連携した図書館の環境整備



(3) 児童自らが本に手を伸ばし主体的に本を読む態度の育成と、読書に親しむ環境作り

- 朝読書の取組



- 読書バッグの利用



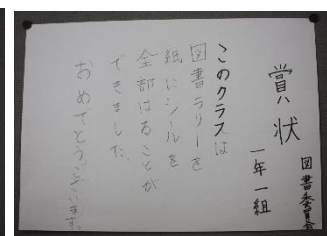
- 学級文庫の充実



- 委員会活動（図書委員会）



- 「読書冊数調査」



(4) 学習における図書の活用の充実

- 京都府立図書館並びに亀岡市立図書館から教科学習等での関連図書の「貸出」利用による学習内容の充実を図る。（例:国語関連、作者関連、図工の作品作り関連、総合的な学習関連、外国語関連など多様な分野の本を借りている）

- 亀岡市立図書館司書に様々な相談にのってもらうことで教科学習の広がりや深まりを実感する。
(インターネットに頼らない調べ学習方法の獲得)
- 教師の意識の変化：専門性の高い図書館司書・ボランティアなどとの連携により、より深く発展的な学習展開ができる事を実感し、相談している姿が増えている。

4 成果と課題

- 地域の人材を活用したり、公立の図書館と連携したりすることで、児童の読書への取り組み方が変わってきた。また、様々な読書活動を進めることで、本を読む楽しさを知るきっかけとなり、自ら本を読もうとする意欲につながっている。
- 今後はさらに、児童がより利用しやすい環境に整備したり、学校図書館活用を有効に位置づけた指導を実施したりと読書活動の充実を図りたい。
- コロナ禍であっても、児童の読書への関心や興味が高まる取組を進めたい。